

PTAだより

2019年10月31日 第2号 (No.71)
神戸女学院中高部 P.T.A.

「示された道」

中高部教頭 森谷典史

「意地とプライドにかけて」と言って、こぶしを振り上げてしまうと、そのこぶしを下すことはなかなか難しい。そう言ってこぶしを振り上げてても円満に下ろすことができるのは、友達が多い人だと思う。世界にはいろいろな宗教があるが、宗教、宗派を超えて共通に確認し合えることは、戦わず、世界が平和であること、人々が幸せであることだと信じている。そんなことはわかっていると、大半の人は賛同してくれるが、いざ自分のこととなると、そうとも限らない。自分が自分であることを保つためには、時として意地とプライドが必要で、それがないと生きていくことができないこともある。

次の「フランチェスコの平和の祈り」は有名である。

「神よ、わたしをあなたの平和の道具としてお使いください。憎しみのあるところに愛を、いさかひのあるところにゆるしを、分裂のあるところに一致を、疑惑のあるところに信仰を、誤っているところに真理を、絶望のあるところに希望を、闇に光を、悲しみのあるところに喜びをもたらすものとしてください。慰められるよりは慰めることを、理解されるよりは、理解することを、愛されるよりは愛することを、私が求めますように。私たちは、与えるから受け、ゆるすからゆるされ、自分を捨てて死に、永遠のいのちをいただくのですから。」

「許されなくても許しなさい。」「愛されなくても愛しなさい。」というのが神様の示された道だ。しかし人は、「許されたいのに許さない。」「愛されたいのに愛さない。」というかなり傲慢な感情で生きていることが多い。神様においては、まずは自分が変わることが求められている。こぶしを振り上げ、私はあなたより強いのだという人は、結局は誰からも相手にされなくなる。意地とプライドが傲慢に変わらないように、できれば意地とプライドを捨てて、神様に愛され、平和に生きることができる世界であることを祈ります。

●目次 「PTAだより」 2019年度 第2号

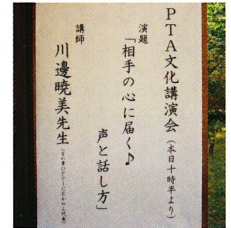
● 教頭先生挨拶	1	● 芸術鑑賞会	2
● 文化講演会	1	● 文化祭	3・4
● 聖書を学ぶ会	2	● 学年ボロ・	
● PTA 幹事会報告	2	クラス T シャツ特集	4

文化講演会

6月13日(木)、コムホールに神戸女学院大学非常勤講師の川邊暁美先生をお迎えし、「相手の心に届く♪声と話し方」と題するご講演を、拝聴いたしました。

青空のもと心地よい風が岡田山をわたるなか、中高部の保護者124名にご出席いただきました。

まず、声と言葉の力の重要性について教えていただきました。声が聞きやすくなることで周りから耳を傾けてもらえるようになり、温かい言葉には受け止めてくれる人がいたというご自身のご経験談はとても印象的でした。



次に、発声のトレーニングです。皆で一緒に金子みすゞの詩を群読。口角をあげ、母音をしっかり区別することで音に明瞭さが増し言葉に深みがでることを学びました。



さらに、思いが伝わる話し方3つの法則(①話の地図を描く、②的確なことは、③聴き手の反応と納得を得る工夫)について分かりやすくご説明いただきました。



最後は、声と言葉を磨く3つの習慣です。まずは、自分の声と話し方を意識する。2つ目に、心と言葉の感性を磨く。3つ目は、これが最も重要なのですが、自分の大切な人に話すつもりで話すこと。初めて会う人、苦手な人であっても、やさしく丁寧に声と言葉を手渡していく。反応を受け止めながら声と言葉を紡いでいくことが大切であると教えていただきました。声と言葉を通して人生を豊かにする素敵なヒントを沢山いただきました。川邊先生、素晴らしいご講演をありがとうございました。



(担当：S2 広報部)

講師 川邊 暁美先生プロフィール

神戸女学院大学卒業後、NHK神戸放送局ニュースキャスターを経て、1989年全国初の県政のスポークスパーソン「兵庫県広報専門員」に登用され、以後7年間、全国に向け、広報・講演活動を展開した経歴を持つ。

2008年、「言の葉OFFICEかのん」設立。「声と話し方が変われば運命が変わる」ことをモットーに講演・セミナーや企業研修、パーソナルレッスンなど、幅広く活躍。

2009年から神戸女学院大学で「キャリアのためのコミュニケーション論」を担当。